

400 年続く“やきものの町”の裏側をひらく 4 日間 波佐見町を巡る新イベント「オープンハサミ 2026」初開催

窯元・工房から農業、食、文化まで、“つくる人・仕事・暮らし”を体感
10 月 31 日（土）～11 月 3 日（火・祝）、町全体を舞台に“秋の新たな文化”が始まる



長崎県波佐見町では、2026 年 10 月 31 日（土）～11 月 3 日（火・祝）の 4 日間、波佐見のものづくりや食、文化など、普段は見えない“[産地の裏側](#)”を巡って体感する新イベント「[オープンハサミ 2026](#)」を初開催します。

約 400 年の歴史を持つ波佐見焼は、日本の日用食器の約 14%を生産する、日本を代表する陶磁器産地の一つです。そのものづくりは一つの工房だけで完結するのではなく、器の原型となる型をつくる「型屋」、粘土を器の形に整える「生地屋」、絵付けや釉薬を施し焼き上げる「窯元」、商品を全国へ届ける「商社」など、さまざまな仕事がつながる「分業制」によって支えられています。

春には「波佐見陶器まつり」に約 26 万人が訪れる一方、完成した器の背景にどんな人や仕事があるのかは、まだ広く知られていません。さらに波佐見には、食や農業、歴史・文化、暮らしなど、“器の向こう側”にある魅力が数多くあります。

そこで、こうした波佐見の魅力に触れ、何度も訪れたい人を増やすため、行政・観光・産業に関わる 6 団体（波佐見町、東彼商工会、波佐見町観光協会、波佐見焼振興会、波佐見陶磁器工業協同組合、長崎県陶磁器卸商業協同組合）が新組織「オープンハサミプロジェクト」を設立。町内の事業所や団体とともに、“秋の新たな文化”づくりを目指します。

その第一弾となる「オープンハサミ 2026」では、波佐見焼を“買う”だけでは見えてこなかった、器が生

まれるまでの仕事や人、その背景にある町の魅力をひらきます。窯元・工房をはじめ、農業、飲食店、歴史・文化など、町の各所を巡りながら、普段は見えない波佐見を、見て、触れて、体感する4日間です。工房をのぞいて、作り手と話して、ものづくりを体験して、おいしいものを味わう。気になる場所を自由に巡りながら、この4日間だからこそ出会える“いつもとは違う波佐見”を楽しめます。

「オープンハサミ 2026」 イベント概要

「見る・知る・遊ぶ 開けてみる？」 いつもは見えない波佐見を巡る

「オープンハサミ 2026」では、「見る・知る・遊ぶ 開けてみる？」をテーマに、普段は入れないものづくりの現場を訪ね、作り手と出会い、食や文化に触れながら町を巡ります。器を買うだけでは出会えない、“いつもとは違う波佐見”へ。気になる場所を訪ねながら、自分だけの波佐見を見つける4日間です。

01 | 見る | 普段は入れない、ものづくりの現場へ。

普段は一般公開していない窯元・工房や製造工程を、この4日間限定で公開。いつも使っている器は、どこで、誰が、どうやってつくっているのか。器が生まれる瞬間を自分の目で確かめることができます。

02 | 知る | 器の向こう側にいる、“人”に会う。

職人の実演や工房見学、ワークショップを通して、作り手と直接出会えるのもオープンハサミならでは。「この器、こんな人がつくっていたんだ。」完成した器だけでは分からない、ものづくりの背景やストーリーに触れます。

03 | 遊ぶ | 工房から食まで、町を巡って楽しむ。

一つの会場だけで楽しむイベントではありません。窯元・工房、飲食店、文化スポットなどを巡りながら楽しむのがオープンハサミ流。気の向くままに町を巡りながら、自分だけの楽しみ方を見つけてください。

04 | 味わう | やきものだけじゃない、波佐見を楽しむ。

町のお店では、この4日間に合わせた特別メニューや新しいメニューなど、食を通して波佐見を楽しむ企画も登場します。一日を通して“波佐見という町”を楽しめます。



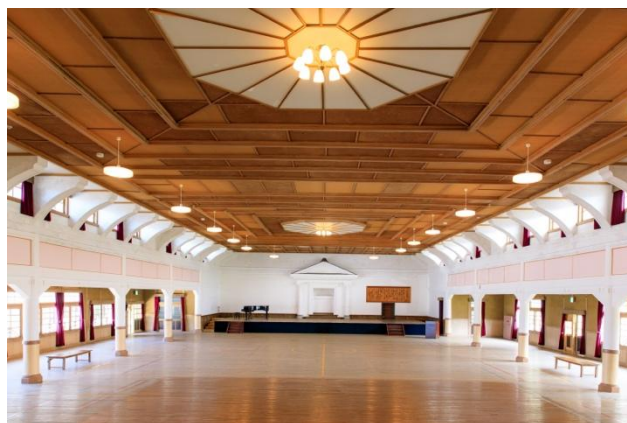
「オープンハサミ 2026」開催概要

名称 : オープンハサミ 2026
日程 : 2026 年 10 月 31 日 (土) ～11 月 3 日 (火・祝)
※時間は事業者・コンテンツによって異なります
開催場所 : 長崎県波佐見町内各所
主催 : オープンハサミプロジェクト
公式 HP : <https://open-hasami.com/>



オープンハサミイベント拠点「波佐見町講堂」

イベントの拠点は、国の登録有形文化財にも指定された「波佐見町講堂」となります。「どこから巡ればいい？」という方にも楽しんでもらえるよう、興味や過ごし方に合わせたおすすめの巡り方を提案します。「見る」「知る」「遊ぶ」「味わう」を自由に組み合わせて、自分だけの波佐見へ。町を巡ることそのものが、オープンハサミの楽しみ方です。



波佐見町講堂 〒859-3711 波佐見町井石郷 2196-2

<アクセス>

■お車でお越しの方

・西九州自動車道「波佐見有田 IC」から約 5～6 分・長崎自動車道「嬉野 IC」から約 15 分

■公共交通をご利用の方

・JR 大村線「川棚駅」からバスで約 15～20 分、「西の原」バス停下車すぐ
・JR 佐世保線「有田駅」からタクシーで約 15 分

なぜ今、波佐見町を「ひらく」のか

約 400 年の歴史を持つ波佐見焼の産地・波佐見町は現在、人口減少や担い手不足など、町の暮らしやものづくりを次世代にどうつないでいくかという課題に直面しています。だからこそ、町に関わる人を増やし、未来を一緒につくる仲間を増やしていくことが必要です。波佐見町に住む人、働く人、訪れたこ

とがある人、波佐見焼を愛用する人、そして、まだ波佐見町を知らない人。「波佐見焼」だけでなく、その背景にある人・仕事・文化・暮らしまで知ってもらうことで、「好き」「また来たい」と思う人を増やしていく。行政・観光・産業が垣根を越えて連携し、「町そのものの魅力」をひらく。人と人が出会い、新しい挑戦が生まれる。そのきっかけを、オープンハサミからつくっていきます。

波佐見にある魅力を「再編集」



オープンハサミは、ゼロから新しいものをつくるイベントではありません。主役は、普段から波佐見町にある工房、窯元、店舗、農業、食、人、文化、そして町の日常そのものです。

町内ですでに行われているイベントや取り組み、人・場所・文化・産業を、「オープンハサミ」という4日間につなぎ、再編集。これまで別々に見えていたものがつながり、新しい出会いが生まれます。

町のあちこちで扉が開けば、波佐見町全体が一つの大きな会場に。「イベントを見に行く」のではなく、「町を巡ることそのものがイベントになる」。知っている波佐見も、知らなかった波佐見も。いつもの町が少し違って見える。それが、オープンハサミがつくる新しい波佐見の楽しみ方です。

主催者コメント

波佐見町には、やきものだけでなく、仕事、食、文化、暮らしなど、まだ知られていない魅力がたくさんあります。オープンハサミをきっかけに、町の人自身がその魅力を再発見し、町の外から訪れる皆さんにも新しい出会いを楽しんでいただきたい。『秋になったらオープンハサミに行こう』と思っていただけのような、波佐見の新しい文化を、町のみなさんと一緒に育てていきたいと思います。